

【問題】 R を単位元 $1_R (\neq 0)$ を持つ環, k を R の部分環とする. ただし k は R と同じ単位元を持つものとする ($1_k = 1_R$). k が体であるとき, 次の問いに答えよ.

(1) k から R への作用を R の乗法によって次のように与える:

$$k \times R \rightarrow R, \quad (a, r) \mapsto ar.$$

このとき R は k 上のベクトル空間となることを確かめよ.

(2) R は k 上のベクトル空間として有限次元とする. このとき任意の $r \in R$ に対して $f(r) = 0$ となる k 上の多項式 $f(x) \in k[x] - \{0\}$ が存在する事を示せ.

(3) R は整域で, k 上のベクトル空間として有限次元とする. k が代数的閉体であれば $R = k$ となる事を示せ.

(4) R が整域でないとき, (3) が成り立たなくなる例を与えよ.

(H20 静岡大学理学研究科 数学専攻)

【解答】 (1) $a, b \in k, r, s \in R$ とする. このとき R に於ける分配則より $a(r+s) = ar + as$ が成立. 従って $a \cdot$ は加法群 R 上の自己準同型である. また $(a+b)r = ar + br, (ab)r = a(br), 1r = r$ より $k \ni a \mapsto a \cdot \text{End}(R)$ は単位的環準同型となる. 従って R は k 上のベクトル空間である.

(2) $\dim_k R = n$ とすると $n+1$ 個以上の元は k 上一次従属となるから, 任意の $r \in R$ に対し $c_0 + c_1 r + \dots + c_n r^n = 0$ について少なくとも1つの係数 c_i は0では無いような c_0, \dots, c_n が存在する. $c_1 = \dots = c_n = 0$ だとすると $c_0 = 0$ となり矛盾から, 1以上の i で $c_i \neq 0$ となるものが存在する. ここで $f(x) = c_0 + c_1 x + \dots + c_n x^n \in k[x] - \{0\}$ とすれば $f(r) = 0$ となる.

(3) (2) より $r \in R$ に対し $f(r) = 0$ となる k 係数の (monic な) 多項式 $f(x) (\neq 0)$ が存在する. k は代数的閉体だから, $f(x)$ は一次式の積 $(x - a_1) \dots (x - a_m)$ ($a_i \in k$) に分解され $(r - a_1) \dots (r - a_m) = 0$ が成立. R は整域だから, 或る i に対し $r - a_i = 0$, 従って $r = a_i \in k$ となる.

(4) $R = \mathbb{C}^2$ (複素数体の直積環) とする. $(a, a) \in R$ ($a \in \mathbb{C}$) により \mathbb{C} を R の部分体と見做す. $\{(1, 0), (0, 1)\}$ が \mathbb{C} 上の基底となるから R は \mathbb{C} 上2次元 (従って有限次元). $(1, 0) \cdot (0, 1) = (1 \cdot 0, 0 \cdot 1) = (0, 0)$ より R は整域ではない. $\dim_{\mathbb{C}} R = 2$, $\dim_{\mathbb{C}} \mathbb{C} = 1$ より $\mathbb{C} \subsetneq R$ となる. □

【問題】 変数 x, y, q が $yx = qxy, qx = xq, qy = yq$ をみたすとき、つぎを示せ。

$$(x + y)^m = \sum_{k=0}^m \begin{bmatrix} m \\ k \end{bmatrix} x^k y^{m-k}$$

ここで

$$\begin{bmatrix} m \\ k \end{bmatrix} = \frac{(q^m - 1)(q^{m-1} - 1) \cdots (q^{m-k+1} - 1)}{(q^k - 1)(q^{k-1} - 1) \cdots (q - 1)} \quad (k > 0), \quad \begin{bmatrix} m \\ 0 \end{bmatrix} = 1$$

である。(注意: $\begin{bmatrix} m \\ k \end{bmatrix}$ は q の多項式である.)

(H10 静岡大学理工学専攻 数学専攻)

【解答】 m に関する帰納法により証明する。任意の正整数 m について

$$\begin{bmatrix} m \\ m \end{bmatrix} = \frac{(q^m - 1)(q^{m-1} - 1) \cdots (q - 1)}{(q^m - 1)(q^{m-1} - 1) \cdots (q - 1)} = 1,$$

特に $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} = 1$ だから (右辺) $= \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} y + \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} x = x + y$ となり等号が成立。次に $m > 1$ とし、 $m - 1$ までの成立を仮定すると

$$\begin{aligned} (x + y)^m &= (x + y)(x + y)^{m-1} = (x + y) \sum_{k=0}^{m-1} \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} x^k y^{m-1-k} \\ &= \sum_{k=0}^{m-1} \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} x^{k+1} y^{m-1-k} + \sum_{k=0}^{m-1} \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} y x^k y^{m-1-k} \end{aligned}$$

となる。最右辺の第 1 項は

$$(\text{第 1 項}) = \sum_{k=0}^{m-1} \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} x^{k+1} y^{m-(k+1)} = \sum_{k=1}^m \begin{bmatrix} m-1 \\ k-1 \end{bmatrix} x^k y^{m-k} \quad (k+1 \text{ を改めて } k \text{ とした}).$$

となる。第 2 項について $yx = qxy$ より $yx^k y^{m-1-k} = q^k x^k y^{m-k}$ となる事に注意すれば

$$\begin{aligned} (x + y)^m &= \sum_{k=1}^m \begin{bmatrix} m-1 \\ k-1 \end{bmatrix} x^k y^{m-k} + \sum_{k=0}^{m-1} q^k \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} x^k y^{m-k} \\ &= \begin{bmatrix} m-1 \\ m-1 \end{bmatrix} x^m + \sum_{k=1}^{m-1} \begin{bmatrix} m-1 \\ k-1 \end{bmatrix} x^k y^{m-k} + \sum_{k=1}^{m-1} q^k \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} x^k y^{m-k} + \begin{bmatrix} m-1 \\ 0 \end{bmatrix} y^m \\ &= \begin{bmatrix} m-1 \\ m-1 \end{bmatrix} x^m + \sum_{k=1}^{m-1} \left(\begin{bmatrix} m-1 \\ k-1 \end{bmatrix} + q^k \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} \right) x^k y^{m-k} + \begin{bmatrix} m-1 \\ 0 \end{bmatrix} y^m. \end{aligned}$$

となる。上の式の第 1 項と最終項の係数は $\begin{bmatrix} m-1 \\ m-1 \end{bmatrix} = 1 = \begin{bmatrix} m \\ m \end{bmatrix}$, $\begin{bmatrix} m-1 \\ 0 \end{bmatrix} = 1 = \begin{bmatrix} m \\ 0 \end{bmatrix}$ であり、更に $1 \leq k \leq m - 1$ のとき、 $x^k y^{m-k}$ の係数は

$$\begin{aligned}
& \begin{bmatrix} m-1 \\ k-1 \end{bmatrix} + q^k \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} \\
&= \frac{(q^{m-1}-1)\cdots(q^{(m-1)-(k-1)+1}-1)}{(q^{k-1}-1)\cdots(q-1)} + q^k \frac{(q^{m-1}-1)\cdots(q^{(m-1)-(k-1)+1}-1)(q^{(m-1)-k+1}-1)}{(q^k-1)(q^{k-1}-1)\cdots(q-1)} \\
&= \frac{(q^{m-1}-1)\cdots(q^{(m-1)-(k-1)+1}-1)}{(q^{k-1}-1)\cdots(q-1)} \left\{ 1 + q^k \frac{q^{(m-1)-k+1}-1}{q^k-1} \right\} \\
&= \frac{(q^{m-1}-1)\cdots(q^{(m-1)-(k-1)+1}-1)}{(q^{k-1}-1)\cdots(q-1)} \cdot \frac{q^m-1}{q^k-1},
\end{aligned}$$

従って $\begin{bmatrix} m-1 \\ k-1 \end{bmatrix} + q^k \begin{bmatrix} m-1 \\ k \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} m \\ k \end{bmatrix}$ となるから

$$(x+y)^m = \begin{bmatrix} m \\ m \end{bmatrix} x^m + \sum_{k=1}^{m-1} \begin{bmatrix} m \\ k \end{bmatrix} x^k y^{m-k} + \begin{bmatrix} m \\ 0 \end{bmatrix} y^m = \sum_{k=0}^m \begin{bmatrix} m \\ k \end{bmatrix} x^k y^{m-k}$$

以上より m のときにも成立し、従って任意の m について等式が成立する。

□